

第 10 回女性教員のための体育研修会

1 ねらい

- ・女性教員を対象にすることで、誰もが参加しやすくするとともに、日頃の体育学習に関する悩みを気軽に話せる機会をつくる。
- ・女性教員が体育についての研修を深めることで、県下全体の体育学習のレベルアップを図る。

2 日 時 平成29年8月8日(火) 9:30~16:00

3 主 催 山口県小学校体育連盟・山口県小学校教育研究会体育部
山口県教育委員会

4 後 援 山口市教育委員会

5 会 場 やまぐちリフレッシュパーク(メインアリーナ)

6 参加者 山口県内女性教員・大学生 80名

7 講 師 ノートルダム清心女子大学 准教授 安江 美保 先生

8 内 容 テーマ「表現リズム遊び・表現運動」

第1部 講義・実技指導

「表現領域について」「リズム遊び・リズムダンス」(9:40~11:40)

表現領域についての講義では、小学校低・中・高学年、中学校、高等学校での学習内容にふれながら、12年間の学びを連続させていくことが重要であり、各段階できちんと学習内容を習得させ、次の段階へつなげることが大切であると話された。表現系では表したいイメージを自由に動いて表すこと、リズムダンス系ではリズムに乗って自由に踊ることという特徴についても分かりやすく説明をしていただいた。また、表現

領域の運動は、人と関わる力、ノンバーバルコミュニケーション(表情・しぐさ・動き)力の育成にもつながること、そして、ある特定の力がなくても今持っている力でできる運動であることも魅力であると教えていただいた。そして、新学習指導要領に示されている

「主体的・対話的で深い学び」になるためにも、課題解決学習が前提で、活動の中に確かな学びがある授業づくりを考えていくことが大切であると話された。実技指導では、1時間の授業の中で、教師主体の「やっ

てみる(習得)」場面から、子ども主体の「広げる(活用)」場面を想定して指導をしていただいた。その中で、確かな学びのある授業づくりのヒントをたくさん提供していただいた。また、活動前のストレッチや2人組での動きや遊びは、自然に体も心もほぐされるもので、大変参考になった。「ロックやサンバのリズムに乗って」では、おへそ(体幹)を使って踊る楽しさを体験することができた。また、4つのくずし(体のくずし・リズムのくずし・空間のくずし・人間関係のくずし)というポイントも分かりやすく説明をしていただき、実際に体験しながら学ぶことができた。講師の先生の声かけで、参加者の皆さんの動きが自然と大きく、メリハリや連続性のあるものになり、リズムダンスの楽しさを十分に味わうことができていた。



第2部 講義・実技指導 「表現遊び・表現」 (12:40～14:00)

「ジャングルたんけんに出発！」では、実際の授業場面を想定した流れで指導していただいた。まず、「ジャングルたんけん」について思い浮かぶイメージを出し合った。この時、出てきたイメージを分類して板書することや、イラストを提示しながらイメージを膨らませるなどのポイントを教えていただいた。そして、「やってみる(習得)」場面では、講師の先生が主となり、「草をかき分けて進み、何かを見つける」「ぐらぐら1本橋を渡り、川に落ちて流される」「ウパウパ族との戦い」という3つの動きを体験した。ポイントは「動きの誇張」「連続した動き」



「変化とメリハリ」であり、それが体験できるように声かけをされたり、動きのお手本を提示されたりした。その後の「広げる(活用)」場面では、2人組、4人組でジャングルたんけんのカルタをめくりながら、いろいろな動きに挑戦した。この時、「やってみる(習得)」場面で得たことをしっかりと取り入れながら活動するという活用の体験をすることができた。互いに動きを見合う場面の面白さも実感し、実際の授業で、見合う場面を取り入れることの大切さにも気付くことができた。

ティータイム&フリートーク (14:00～14:50)

参加者の方々は、好きなケーキを食べながら笑顔で話をされていた。今回は、事前にフリートークの話題に関するアンケートを取り、その内容を取り上げた。「グループづくりについて」「評価について」「運動会の表現について」など、日頃の悩みがいくつか出ていたので、講師の先生に話をしていただいた。ご自身のご経験をもとに、分かりやすく説明をしていただいたので、参加者の方は熱心にメモを取りながら話を聞かれていた。今後の体育学習において大変参考になる内容であり、有意義な時間となった。

第3部 講義・実技指導 「表現遊び・表現」 (14:40～15:40)

「生き物ランドへ出発！」では、始めに動きに表したらおもしろそうな生き物を出し合った。陸の生き物、昆虫、海の生き物に分けて出し合い、「生き物カルタ」も紹介していただいた。カルタは動きの手がかりとしてとても有効であった。まず、講師の先生が主となり、ゴリラ、タコ、ニワトリの動きに挑戦した。全身を使って特徴をとらえるコツを教えていただき、次の活用場面につながる内容であった。活用場面では、2人組でカルタをめくりながら、いろいろな生き物の動きに挑戦し、互いに見合う場面もあった。見合う場面では、2つのグループで関わりをもたせて発表する方法もあることを教えていただいた。最後は、体のマッサージをしながらリラックスして実技指導を終えた。今回の実技を通して、表現領域の魅力をしっかりと体感できたのではないかなと思う。

～第10回女性教員のための体育研修会参加者の声～

- ・表現運動はこれまでどのように指導していけばよいか分からずにいたが、指導方法を教えていただき、具体的な授業のイメージ(声のかけ方、活動の流し方等)がもてた。これから積極的に実践してみようと思った。
- ・いきものかるたなど、実際に学校ですぐに使えるような実技がたくさんあり、2学期以降実践してみたいと思った。
- ・最初は抵抗があったが、楽しく研修することができました。苦手意識がありましたが、今日やってみると楽しくもっとやりたいと思った。だんだん楽しくなる感覚を知ることができた。
- ・教師自身が下手でも、楽しんで思い切り表現することが大切だとわかった。指導する意識や雰囲気が大切だと感じた。「子どもたちのよいリーダーになる。」という安江先生の言葉で「自分が動かなくては」と思えるようになった。
- ・今日学んだことを実践チャレンジし、苦手でも体を動かすことの楽しさや魅力を子どもたちに伝えていきたい。